

【タイトル】

「プロンプト思考」——AI コミュニケーションが変える組織とチームの絆

【概要】

本企画は、AI と人間との対話（AI コミュニケーション）を円滑にする「プロンプト思考」を養うことで、職場でのすれ違いや人間関係の問題を解消し、組織やチームの“絆”を深める実践的なノウハウを提案します。著者の企業人事・研修講師の経験をもとに、具体的なプロンプト例やワークショップ形式の演習を盛り込み、読者が「相手の意図をくみ取り、正確に伝える力」を自然と身につけられる構成です。プロンプトを学ぶことによって、AI をうまく活用できるだけでなく、上司・部下・同僚との信頼や連帯感がいっそう強まります。業務効率の向上だけでなく、人と人との深いつながりこそが、急激に変化する社会を乗り越える鍵になる——そんな“絆”の力を、多くの読者へ届ける本でありたいと願っています。

【想定する読者ターゲット】

- ① チーム運営や組織マネジメントの新たな手法を取り入れたい企業の管理職・リーダー
- ② AI を業務に導入しながら、人間関係の改善も同時に狙いたい人
- ③ 日常のやり取りや報連相に悩みを抱え、「もう少しスムーズに進めたい」と考えている人
- ④ AI に興味はあるが、具体的にどのように使えば良いのか知りたい人
- ⑤ 職場や学校など組織の現場で、コミュニケーションの改善方法を探している人

【構成案】

第1章：コミュニケーションの本質を知る——言葉がつなぐ職場の絆

- ・日本の“察する文化”が抱える課題
- ・人間同士の誤解と、AI が引き起こす想定外の答えの共通点
- ・スピードと正確性が求められる現代だからこそ必要な“言語化”発信

第2章：プロンプト思考とは何か——いま求められる“発信者責任”

- ・「プロンプト思考」の定義
- ・意図を言語化し、相手を意識することで誤解を減らす
- ・失敗を学びに変え、絆を深めるという正のサイクルをつくる

第3章：なぜ「プロンプト思考」が職場の絆を深めるのか

- ・AI コミュニケーション～AI への正確な指示が会話力を高める仕組み～
- ・「伝える力」×「共創」が生む信頼関係の具体例

第4章：プロンプトの基本——効果的な指示の出し方を学ぶ

- ・シンプルなプロンプト vs 複雑なプロンプトの使い分け
- ・「何を伝えるか」を明確にするためのテンプレート紹介
- ・小演習：小さなワークショップ形式で書き方を試す方法

第5章：プロンプトで鍛える「質問力」と「傾聴力」

- ・ AIに「良い質問（効果的な質問）」をして会話力を高める
- ・ 「Yes/No」から「オープン・クエスチョン」へ進化させるコツ
- ・ 実践ワーク：AIを活用した「相手の意図をくみ取る練習」

第6章：絆（信頼関係）を深める AI 活用術

- ・ 「部下との対話」を AI でシミュレーションする
- ・ AI を活用した「フィードバックの質向上」
- ・ 「職場の問題点」を AI と一緒に整理・解決していくプロセス

第7章：これからの AI と人間の未来像——絆が拓く新時代

- ・ AI の進化と“超知性”への展望
- ・ 共感や倫理観が問われる未来のコミュニケーション
- ・ 絆が生み出す持続可能な社会と、多様な働き方の可能性

※第4、5章で「実際に AI ツール（ChatGPT 等）に問いかけ、答えを分析する小演習」を想定

【サンプル原稿】

「プロンプト思考」——AI コミュニケーションが変える組織とチームの絆

はじめに

日本の国民的漫画『ドラえもん』。あなたも一度は読んだことがあるのではないのでしょうか。ドラえもんとのび太の物語は、まるで人間と AI との関係を映し出しているように思います。

未来から来たドラえもんは、私たちをはるかに上回る知識や道具を持っています。そこで、のび太が「こんなもの、ないの？」と相談をすると、何とか助けようと奮闘します。しかし、のび太が道具をむやみに使いすぎたり、そもそもの目的が曖昧だったりして、毎回トラブルになり、失敗を繰り返す結果になります。

果たしてこれは、ドラえもんが悪いのか、のび太が悪いのか？——実際のところ、どちらとも言い切れないと思います。では、なぜこんな結果になってしまったのでしょうか。それは、お互いにうまく意図が伝わっておらず、起こるべくして起きたと言えるのではないのでしょうか。ただ不思議なことに、この失敗の積み重ねが二人の絆を深めているようにも見えます。最初は「仕方なく面倒をみてあげる」というスタンスだったドラえもんが、いつしか「のび太のパートナー」へと変わり、互いを大切に思う関係に育っていくからです。

私たちと AI の関係も、よく似ています。AI はロボットではないものの、膨大な情報や知識を持ち、すぐれた分析力を発揮します。しかし、人間が何を求め、どんな制約があり、どこにゴールを置いているのかを明確に伝えないと、ときに想定外の回答が返ってきてしまう。「職場でも、一度指示したのに意図が伝わっていない」「上司が何を言いたいのかさっぱり分からない」——そんな経験は誰しもあるのではないのでしょうか。

そこで大切なのは、「AI は使い方がわからないから放っておく」のではなく、「AI を活用することで、人間同士の絆も深められるかもしれない」と考えてみることです。AI に的確な指示を出すために「何のために」「どんな制約の中で」「誰にメリットがあるのか」を整理する過程が、自然と同僚や部下への説明にも生きてくる。曖昧だった会話が明確になり、“共創”の場へと変わっていくのです。

私自身、IT 企業の人事や総務を長く経験してきました。そこで何度も見てきたのは、ささいなコミュニケーション不足が原因で、離職や業務効率の低下につながる現場の姿です。話し合えば解決しそうなことなのに、言葉にする前に察してほしいと願うに留まり、いつの間にか壁ができってしまうのを痛感してきました。

ところが AI と接するようになると、「意図をきちんと伝えなければ結果が得られない」という当たり前の事実を改めて思い知らされます。曖昧なまま指示すると、望む答えは得られない。それは、人間同士のやりとりも同じです。つまり、AI と向き合い、しっかりと対話を行うことができれば、“明確に言語化する”という習慣が身につく、すれ違いのないスムーズなコミュニケーションを実現し、円滑な人間関係がとれるようになるのです。

こうした“意図のすり合わせ”こそが、のび太とドラえものの物語で見ると、お互いを思いやり、いつしか欠かせない存在へと発展していく「絆」の鍵なのではないでしょうか。最初から劇的な変化はないかもしれませんが、失敗も含めて試行錯誤し、「まずは小さな一歩を踏み出してみる」という意識があれば、コミュニケーションの質は確実に変わっていきます。チームや仲間との関係も、そこから生まれる気づきを共有するうちに、深まっていくのだと思います。

本書では、AI との共創がもたらす「絆の物語」を、あなた自身が体感できるよう、AI との具体的なコミュニケーションの取り方や人事・総務を長年経験してきた著者の経験談を交えながらご紹介していきます。AI へのプロンプト例や、すぐに職場で使えるコミュニケーションのコツも用意しました。「人間関係がうまくいかない」「AI って難しそうだけど役に立つの？」と感じる方こそ、ぜひ本書をヒントに AI との対話を始めてみてください。

AI を恐れるのではなく「共創のパートナー」として迎え入れることで、これからの社会に本当に必要な“絆”が芽生える——私はそう信じています。そう遠くない未来、AI が人間の英知を超える「超知性」を備えた存在になったとしても、そこにあるのはのび太とドラえもんのような“心の通った関係”になるのではないのでしょうか。

そして、この本を最後まで読んでいただくなかで、「AI と一緒に仕事をするって、こんなに面白いんだ」「AI とだけでなく、部下や上司ともっと話してみようかな」と感じていただければ幸いです。ここで紹介する「プロンプト思考」によって、あなたの職場やチームメンバーとの絆が、ほんの小さな一歩からでも“劇的に変わる”可能性を秘めていることを、ぜひ体感していただければと思います。

[以上となります。よろしくお願いいたします]